

野軍の軍一、
 厚示、距十米、乃、
 動、百米、ニ、
 何、
 二、
 砲、
 投、
 の、
 4、
 奔、
 男、

再、
 運、
 指、
 以、
 目、
 二、
 及、
 皆、
 万、

265

部隊の行動が
 妨害スルコト
 相手が下り
 2. 迂回(利ハ
 敵方ニ在リ
 敵方ノ不利トスル
 所ハ外ニ出スルコト
 機動ヨリ
 稍モ速シク機
 動ハスルコト

3. 陣地放棄
 標相
 敵ハ徹底的ニ機動
 ヲ我方陣地ニ向
 ツルコトヲ我々
 先頭ニ逐次陣
 内ニ侵入ス
 最初ハ山ヲ攻メテ
 逐次大丁ニ我々
 ニ陣地ニ指タシテ
 ワシ又ハ機動ヲ大
 隊ニ

286

偉觀のトラスカ
如平々々々々
絶好ニ極ニ能ク
正自力ヲ以テ
推高ク打倒ス
ト云フニ似テ
是レ其ノ本質
常ニ此ノ如ク

七、政界ノ室相及
其後
一、拉通挽散
ヲ指ス限リ
又、差違致シ
ニ於テモ極端
時弊及斂持等
ニ好シ極善
想メテ少シク
此レハ是レ也
此子ニ學想共
夜言ニ於テ

267

新得ハ夏夜
 身も寝えつあま
 之砲塚ナト
 昼百ハ勿論
 夜百ハ難
 困難ニシテ
 地形ニ花テ
 移カハ益々困難
 ナレハナリ
 4. 島嶼周囲
 二十科以内ニアル
 十島の海ニテハ

予々之カ砲塚無
 一火砲其ノ他ノ本
 体ヲおし里ノ
 あり之海ニ島
 リテ不似支障
 艦化セシムル
 ナリ
 5. 精中率
 船中持込ニ
 感散之ハ可
 之ヲ待望シ
 果ラセムル
 遂ニ他カ

388

極大平大平

六、作武

上、野

其、延、境、部、
其、延、境、部、
其、延、境、部、
其、延、境、部、
其、延、境、部、
其、延、境、部、
其、延、境、部、
其、延、境、部、
其、延、境、部、
其、延、境、部、

其、延、境、部、

其、延、境、部、

其、延、境、部、
其、延、境、部、
其、延、境、部、
其、延、境、部、
其、延、境、部、
其、延、境、部、
其、延、境、部、
其、延、境、部、
其、延、境、部、
其、延、境、部、

其、延、境、部、
其、延、境、部、
其、延、境、部、
其、延、境、部、
其、延、境、部、
其、延、境、部、
其、延、境、部、
其、延、境、部、
其、延、境、部、
其、延、境、部、

269

270

五、通信の目的

1. 伝達
直接に
伝(列)の
可
般
事
補
又
右
人

補修振込

2. 伝令
般
事
補
又
右
人

四島内浦部隊、
指揮隊馬島部隊
島内浦部隊は全部
解散内浦は之より
二隻之ヲ早用し
敵は、解下し
之のりえは、
敵上陸ニ至リテ
自らの戦士ニ行部
ヲ左にせし、
又島内戦士は、
敵方隊は、
ヲ敵初より之を
移スリ後、

二通信士、
之が早用ヲ行フ指揮
官ニ要す、
又人軍上ノ部隊
敵方の隊は、
早用ヲ行フ指揮
隊は、
敵方隊は、
敵方隊は、

27

2. 軍砲兵ノ編制ニ就テ

機械化十五機 十五機
ヲ主体トシ又大型
巡洋艦ニ対抗撃沈
能力ヲ有スル大口徑
大砲ヲ相當數備スル
ニテ要ス
追々砲兵軍砲兵ノ
編制ニテ是也
作戦砲兵補足乃至
野隊砲兵補足は
海岸編組セラル
可トス

三. 準備

兵砲部隊ノ編制
病院船ニテは
如何ノ問題
左ノ準備ヲ要ス
ヲ準備スル要ス
対空車 敵機資材
トモトモ(付) 付(付)
山砲兵砲
機材
野入用燃料 手榴弾
林隊用 10kg 7kg
ニテ之ヲ斬入 防具
一併貯蓄スル可トス
大砲用

272

第ノ認識ニシテ
要ス
島嶼ノ広域ニ依
リテハ既キニ逐次
大陸作隊ノ梯相
ヲ望ムニ至ル

三番ノ編成ニ於テ
正規師團ノ編成ニ
シテ要ス
独立混成大隊ヲ
數箇ヲ以テ格田トシ
之ヲ二個合シテ師團
トスニ師團ノ總ヲ一
可ナリ
軍機ヲ中核トスル解
隊ノ戦力ニ絶オミテ
之ニ西敵ニ又ハ稱ハ優
シカラズニ長率大隊
數ヲ編成スルモ兵力
ニ於テ尚ホ教導上ト

223

2. 甚高陣まう専
新設司令部
投入し不可
之司令部
能者揮止相
期間ヲ要此
作戦準備
セラルハ一
司令部機
本務以作
種さるハ
アガハハ

二、兵力量決定
濠島守備
即ケ決
持久
依り
場合
基地
場合
数
広
量
地

277

275

雜島伝

一 龍島作

二 龍丁

大陸伝

他 一 高田

故 二 善傳

作 三 剛毅

和 四 氣

中 五 核

